校異源氏物語・よもきふ

もしほたれつゝわひ給ひしころをひみやこにもさま　くにおほしなけく人おほかりしをさてもわか御身のより所あるはひとかたの思ひこそくるしけなりしか二条のうへなとものとやかにてたひの御すみかをもおほつかなからすきこえかよひ給つゝくらゐをさりたまへるかりの御よそひをもたけのこのよのうきふしをとき　くにつけてあつかひきこえ給ふになくさめ給けむなか　くそのかすと人にもしられすたちわかれ給ひしほとの御ありさまをもよその事に思ひやり給ふ人　くのしたの心くたき給たくひおほかりひたちの宮の君はちゝみこのうせ給ひにしなこりに又思ひあつかふ人もなき御身にていみしう心ほそけなりしを思かけぬ御事のいてきてとふらひきこえ給ことたえさりしをいかめしき御いきをいにこそことにもあらすはかなきほとの御なさけはかりとおほしたりしかとまちうけ給ふたもとのせはきにおほ空のほしのひかりをたらいの水にうつしたる心ちしてすくし給しほとにかゝるよのさはきいてきてなへてのようくをほしみたれしまきれにわさとふかゝらぬかたの心さしはうちわすれたるやうにてとをくおはしましにしのちふりはへてしもえたつねきこえ給はすそのなこりにしは　くなく　くもすくし給しをとし月ふるまゝにあはれにさひしき御ありさまなりふるき女はらなとはいてやいとくちをしき御すくせなりけりおほえす神ほとけのあらはれたまへらむやうなりし御心はへにかゝるよすかも人はいておはするものなりけりとありかたうみたてまつりしをおほかたの世の事といひなからまたたのむかたなき御ありさまこそかなしけれとつふやきなけくさるかたにありつきたりしあなたのとしころはいふかひなきさひしさにめなれてすくし給をなか　くすこしよつきてならひにける年月にいとたへかたく思なけくへしすこしもさてありぬへき人　くはをのつからまいりつきてありしをみなつき　くにしたかひていきちりぬ女はらのいのちたえぬもありて月日にしたかひてはかみしも人かすすくなくなりゆくもとよりあれたりし宮のうちいとゝきつねのすみかになりてうとましうけとをき木たちにふくろうのこゑをあさゆふにみゝならしつゝ人けにこそさやうのものもせかれてかけかくしけれこたまなとけしからぬ物ともところえてやう　くかたちをあらはしものわひしき事のみかすしら

ぬにまれ　くのこりてさふらふ人は猶いとわりなしこのす両とものおもしろきいゑつくりこのむかこの宮のこたちを心につけてはなち給はせてむやとほとりにつきてあむなひし申さするをさやうにせさせ給ひていとかうものをそろしからぬ御すまひにおほしうつろはなむたちとまりさふらふ人もいとたへかたしなときこゆれとあないみしや人のきゝおもはむこともありいけるよにしかなこりなきわさいかゝせむかくおそろしけにあれはてぬれとおやの御かけとまりたる心ちするふるきすみかと思ふになくさみてこそあれとうちなきつゝおほしもかけす御てうとゝもをいとこたいになれたるかむかしやうにてうるはしきをなまものゝゆへしらむと思へる人さるものえうしてわさとそのひとかの人にせさせ給へるとたつねきゝてあんないするもをのつからかゝるまつしきあたりとおもひあなつりていひくるをれいの女はらいかゝはせんそこそはよのつねの事ととりまきらはしつゝめにちかきけふあすのみくるしさをつくろはんとするときもあるをいみしういさめ給ひてみよとおもひ給ひてこそしおかせ給ひけめなとてかかろ　くしき人のいゑのかさりとはなさむなき人の御ほいたかはむかあはれなることゝのたまひてさるわさはせさせ給はすはかなきことにてもみとふらひきこゆる人はなき御身なりたゝ御せうとのせむしの君はかりそまれにも京にいてたまふ時はさしのそき給へとそれもよになきふるめき人にておなしきほうしといふなかにもたつきなくこのよをはなれたるひしりにものし給てしけき草よもきをたにかきはらはむものとも思ひより給はすかゝるまゝにあさちはにはのおもゝみえすしけきよもきはのきをあらそひておひのほるむくらはにしひむかしのみかとをとちこめたるそたのもしけれとくつれかちなるめくりのかきをむまうしなとのふみならしたるみちにてはる夏になれはゝなちかうあけまきの心さへそめさましき八月野わきあらかりしとしらうともゝたうれふししものやとものはかなきいたふきなりしなとはほねのみわつかにのこりてたちとまるけすたになしけふりたえてあはれにいみしきことおほかりぬす人なといふひたふる心あるものも思やりのさひしけれはにやこの宮をはふようのものにふみすきてよりこさりけれはかくいみしきのらやふなれともさすかにしんてむのうちはかりはありし御しつらひかはらすつやゝかにかいはきなとする人もなしちりはつもれとまきるゝことなきうるはしき御すまひにてあかしくらし給ふはかなきふるうたものかたりなとやうのすさひ事にてこそつれ　くをもまきらはしかゝるすまひをもおもひなくさむるわさなめれさやうのことにも心をそくものしたまふわさとこのましからねとをのつからまたいそくことなき程はおなし心なる

ふみかよはしなとうちしてこそわかき人はきくさにつけても心をなくさめたまふへけれとおやのもてかしつき給ひし御心をきてのまゝに世中をつゝましきものにおほしてまれにもことかよひ給ふへき御あたりをもさらになれたまはすふりにたるみつしあけてからもりはこやのとしかくやひめのものかたりのゑにかきたるをそとき　くのまさくりものにしたまふゝるうたとてもおかしきやうにえりいてたいをもよみ人をもあらはし心えたるこそみところもありけれうるはしきかむやかみゝちのくにかみなとのふくためるにふることゝものめなれたるなとはいとすさましけなるをせめてなかめ給ふおり　くはひきひろけ給ふいまの世の人のすめるきやうゝちよみをこなひなといふことはいとはつかしくし給てみたてまつる人もなけれとすゝなとゝりよせ給はすかやうにうるはしくそものし給ける侍従なといひし御めのとこのみこそとしころあくかれはてぬものにてさふらひつれとかよひまいりし斎院うせ給ひなとしていとたえかたく心ほそきにこのひめきみのはゝきたのかたのはらからよにおちふれてす両のきたのかたになり給へるありけりむすめともかしつきてよろしきわか人ともゝむけにしらぬところよりはおやともゝまうてかよひしをと思てとき　くいきかよふこのひめ君はかく人うとき御くせなれはむつましくもいひかよひ給はすをのれをはおとしめ給ておもてふせにおほしたりしかはひめ君の御ありさまの心くるしけなるもえとふらひきこえすなとなまにくけなることはともいひきかせつゝとき

　くきこえけりもとよりありつきたるさやうのなみ　くの人はなか　くよき人のまねに心をつくろひ思ひあかるもおほかるをやむことなきすちなからもかうまておつへきすくせありけれはにや心すこしなを　くしき御をはにそありけるわかかくおとりのさまにてあなつらはしくおもはれたりしをいかてかゝるよのするゑに此きみをわかむすめとものつかひ人になしてしかな心はせなとのふるひたるかたこそあれいとうしろやすきうしろみならむと思てとき　くこゝにわたらせ給て御ことのねもうけたまはらまほしかる人なむはへるときこえけり此侍従もつねにいひもよをせと人にいとむ心にはあらてたゝこちたき御ものつゝみなれはさもむつひ給はぬをねたしとなむおもひけるかゝるほとにかのいへあるし大にゝなりぬむすめともあるへきさまにみをきてくたりなむとすこの君を猶もいさなはむの心ふかくてはるかにかくまりなむとするに心ほそき御ありさまのつねにしもとふらひきこえねとちかきたのみはへりつるほとこそあれいとあはれにうしろめたなくなむなとことよかるをさらにうけひきたまはねはあなにくこと　くしや心ひとつにおほしあかるともさるやふはらにとしへ給ふ人を大

将とのもやむことなくしも思ひきこえたまはしなとゑんしうけひけりさるほと
にけに世中にゆるされ給ひてみやこにかへり給と雨のしたのよろこひにてたち
さはく我もいかて人よりさきにふかき心さしを御らむせられんとのみ思ひきを
ふおとこ女につけてたかきをもくたれるをも人の心はへをみたまふにあはれに
おほししることさま　くなりかやうにあはたゝしきほとにさらにおもひいて給
ふけしきみえてつき日へぬいまはかきりなりけりとしころあらぬさまなる御さ
まをかなしういみしきことを思ひなからもゝえいつるはるにあひ給はなむとね
しわたりつれとたひしかはらなとまてよろこひおもふなる御くらゐあらたまり
なとするをよそにのみきくへきなりけりかなしかりしおりのうれはしさはたゝ
わか身ひとつのためになれるとおほえしかひなきよかなと心くたけてつらくか
なしけれは人しれすねをのみなき給ふ大二のきたのかたされはよまさにかくた
つきなく人わろき御ありさまをかすまへ給ふ人はありなむや仏ひしりもつみか
ろきをこそみちひきよくしたまふなれかゝる御ありさまにてたけくよをおほし
宮うへなとのおはせしときのまゝにならひ給へる御心をこりのいとをしきこと
ゝいとゝおこかましけに思て猶おもほしたちねよのうきときはみえぬ山ちをこ
そはたつぬなれゐ中なとはむつかしきものとおほしやるらめとひたふるに人わ
ろけにはよもゝてなしきこえしなといとことよくいへはむけにくむしにたる女
はらさもなひき給はなむたけきこともあるましき御身をいかにおほしてかくた
てたる御心ならむともときつふやく侍従もかの大二のおひたつ人かたらひつき
てとゝむへくもあらさりけれは心よりほかにいてたちてみたてまつりをかんか
いと心くるしきをとてそゝのかしきこゆれと猶かくかけはなれてひさしうなり
給ひぬる人にたのみをかけ給御心のうちにさりともありへてもおほしいつるつ
いてあらしやはあはれに心ふかき契をしたまひしにわか身はうくてかくわすら
れたるにこそあれかせのつてにてもわれかくいみしきありさまをきゝつけたま
はゝかならすとふらひいてたまひてんと年ころおほしけれはおほかたの御いへ
ゐもありしよりけにあさましけれとわか心もてはかなき御てうとゝもなともと
りうしなはせ給はす心つよくおなしさまにてねんしすこし給ふなりけりねなき
かちにいとゝおほししつみたるはたゝやま人のあかきこのみひとつをかほには
なたぬとみえ給ふ御そはめなとはおほろけの人のみたてまつりゆるすへきにも
あらすかしくはしくはきこえしいとをしうものいひさかなきやうなり冬になり
ゆくまゝにいとゝかきつかむかたなくかなしけになかめすこし給ふかの殿には
こ院の御れうの御八講世中ゆすりてしたまふことにそうなとはなへてのはめさ

すさえすくれをこなひにしみたうときかきりをえらせ給けれはこのせむしの君
まいりたまへりけりかへりさまにたちより給てしか　く権大納言殿の御八講に
まいりて侍へるなりいとかしこういける上とのかさりにおとらすいかめしうお
もしろきことゝものかきりをなむし給つる仏ほさつのへんけの身にこそものし
給めれいつゝのにこりふかきよになとてむまれ給けむといひてやかていて給ひ
ぬことすくなに世の人にゝぬ御あはひにてかひなき世のものかたりをたにえき
こえあはせ給はすさてもかはかりつたなき身のありさまをあはれにおほつかな
くてすくし給は心うの仏菩薩やとつらうおほゆるをけにかきりなめりとやう
　く思なり給に大弐のきたのかたにはかにきたりれいはさしもむつひぬをさそ
ひたてむの心にてたてまつるへき御そうそくなとてうしてよき車にのりておも
もちけしきほこりかにもの思ひなけなるさましてゆくりもなくはしりきてかと
あけさするより人わろくさひしきことかきりもなしひたりみきのともみなよろ
ほひたうれにけれはをのこともたすけてとかくあけさはくいつれかこのさひし
きやとにもかならすわけたるあとあなるみつのみちとたとるわつかにみなみを
もてのかうしあけたるまによせたれはいとゝはしたなしとおほしたれとあさま
しうすゝけたるき丁さしいてゝ侍従いてきたりかたちなとをとろへにけりとし
ころゐたうつゐえたれと猶ものきよけによしあるさましてかたしけなくともと
りかへつへくみゆいてたちなむことを思ひなから心くるしきありさまのみすて
たてまつりかたきをしゝうのむかへになむまゐりきたる心うくおほしへたてゝ
御身つからこそあからさまにもわたらせ給はねこの人をたにゆるさせ給へとて
なむなとかうあはれけなるさまにはとてうちもなくへきそかしされとゆくみち
に心をやりていと心ちよけなりこ宮おはせしときをのれをはおもてふせなりと
おほしすてたりしかはうと　くしきやうになりそめにしかとゝしころもなにか
はやむことなきさまにおほしあかり大将殿なとおはしましかよふ御すくせのほ
とをかたしけなく思ひ給へられしかはなむゝつひきこえさせんもはゝかること
おほくてすくしはむへるを世中のかくさためもなかりけれはかすならぬ身はな
か　く心やすく侍ものなりけりをよひなくみたてまつりし御ありさまのいとか
なしく心くるしきをちかきほとはをこたるおりものとかにたのもしくなむはへ
りけるをかくはるかにまかりなむとすれはうしろめたくあはれになむおほえ給
ふなとかたらへと心とけてもいらへ給はすいとうれしきことなれとよににぬさ
まにてなにかはかうなからこそくちもうせめとなむ思はへるとのみのたまへは
けにしかなむおほさるへけれといける身をすてかくむくつけきすまひするたく

ひははへらすやあらむ大将殿のつくりみかき給はむにこそはひきかへたまのうてなにもなりかへらめとはたのもしうははへれとたゝいまは式部卿の宮の御むすめよりほかに心わけ給ふかたもなかなりむかしよりすき　くしき御心にてなをさりにかよひ給ひけるところ　くみなおほしはなれにたなりましてかうものはかなきさまにてやふはらにすくし給へる人をは心きよくわれをたのみ給へるありさまとたつねきこえたまふ事いとかたくなむあるへきなといひしらするをけにとおほすもいとかなしくてつく　くとなき給されとうこくへうもあらねはよろつにいひわつらひくらしてさらは侍従をたにと日のくるゝまゝにいそけは心あはたゝしくてなく　くさらはまつけふはかうせめ給ふをくりはかりにまうてはへらむかのきこえ給ふもことはりなりまたおほしわつらふもさることにはへれは中にみたまふるも心くるしくなむとしのひてきこゆこの人さへうちすてゝむとするをうらめしうもあはれにもおほせといひとゝむへきかたもなくていとゝねをのみたけきことにてものし給ふかたみにそへ給ふへきみなれ衣もしほなれたれはとしへぬるしるしみせ給ふへきものなくてわか御くしのおちたりけるをとりあつめてかつらにしたまへるか九尺よはかりにていときよらなるをおかしけなるはこにいれてむかしのくのえかうのいとかうはしきひとつほくして給ふ

　たゆましきすちをたのみし玉かつら思ひのほかにかけはなれぬるこまゝの
ゝ給ひをきしこともありしかはかひなき身なりともみはてゝむとこそ思ひつれうちすてらるゝもことはりなれとたれにみゆつりてかとうらめしうなむとていみしうない給ふこの人もゝのもきこえやらすまゝのゆいこむはさらにもきこえさせすとしころのしのひかたきよのうさをすくしはへりつるにかくおほえぬみちにいさなはれてはるかにまかりあくかるゝことゝて

　玉かつらたえてもやましゆくみちのたむけの神もかけてちかはむいのちこそしりはへらねなといふにいつらくらうなりぬとつふやかれて心も空にてひきいつれはかへりみのみせられけるとしころわひつゝもゆきはなれさりつる人のかくわかれぬることをいと心ほそうおほすによにもちゐらるましきおい人さへゐてやことはりそいかてかたちとまり給はむわれらもえこそねむしはつましけれとをのかみゝにつけたるたよりとも思いてゝとまるましう思へるを人わろくきゝおはすしもつきはかりになれはゆきあられかちにてほかにはきゆるまもあるをあさひゆふひをふせくよもきむくらのかけにふかうつもりてこしのしら山思ひやらるゝ雪のうちにいているしも人たになくてつれ　くとなかめ給ふはか

なきことをきこえなくさめなきみわらひみまきらはしつる人さへなくてよるもちりかましき御丁のうちもかたはらさひしくものかなしくおほさるかのとのにはめつらしひとにいとゝものさはかしき御ありさまにていとやむことなくおほされぬところ　くにはわさともえをとつれ給はすましてその人はまたよにやおはすらむとはかりおほしいつるおりもあれとたつね給ふへき御心さしもいそかてありふるにとしかはりぬう月はかりに花ちるさとを思いてきこえ給ひてしのひてたいのうへに御いとまきこえていて給ふひころふりつるなこりの雨いますこしそゝきておかしきほとに月さしいてたりむかしの御ありきおほしいてられてえんなる程のゆふつくよにみちのほとよろつの事おほしいてゝおはするにかたもなくあれたるいへのこたちしけくもりのやうなるをすき給ふおほきなる松にふちのさきかゝりてつきかけになよひたるかせにつきてさとにほふかなつかしくそこはかとなきかほりなりたちはなにかはりておかしけれはさしいて給へるにやなきもいたうしたりてついひちもさはらねはみたれふしたりみし心ちするこたちかなとおほすはゝやうこの宮なりけりいとあはれにてをしとゝめさせ給れいのこれみつはかゝる御しのひありきにをくれねはさふらひけりめしよせてこゝはひたちの宮そかしなしか侍ときこゆこゝにありし人はまたやなかむらんとふらふへきをわさとものせむもところせしかゝるついてにいりてせうそこせよよくたつね入てをうちいてよ人たかへしてはおこならむとの給こゝにはいとゝなかめまさるころにてつく　くとおはしけるにひるねのゆめにこ宮のみえ給ひけれはさめていとなこりかなしくおほしてもりぬれたるひさしのはしつかたをしのこはせてこゝかしこのおましひきつくろはせなとしつゝれいならすよつき給ひて

なき人をこふるたもとのひまなきにあれたるのきのしつくさへそふも心くるしきほとになむありけるこれみつ入てめくる　く人のをとするかたやとみるにいさゝかの人けもせすされはこそゆきゝのみちにみいるれと人すみけもなきものをと思てかへりまいる程に月あかくさしいてたるにみれはかうしふたまはかりあけてすたれうこくけしきなりわつかにみつけたる心ちおそろしくさへおほゆれとよりてこわつくれはいとものふりたるこゑにてまつしはふきをさきにたてゝかれはたれそなに人そとゝふなのりして侍従の君ときこえし人にたいめん給はらむといふそれはほかになんものし給ふされとおほしわくましき女なむ侍といふこゑいたうねひすきたれときゝしおゐ人ときゝしりたりうちには思ひもよらすかりきぬすかたなるおとこしのひやかにもてなしなこやかなれはみな

らはすなりにけるめにてもしきつねなとのへんけにやとおほゆれとちかうよりてたしかになむうけ給はらまほしきかはらぬ御ありさまならはたつねきこえさせ給へき御心さしもたえすなむおはしますめるかしこよひもゆきすきかてにとまらせ給へるをいかゝきこえさせむうしろやすくをといへは女ともうちわらひてかはらせ給御ありさまならはかゝるあさちかはらをうつろひ給はてはゝへりなんやたゝをしはかりてきこえさせ給へかしとしへたる人の心にもたくひあらしとのみめつらかなるよをこそはみたてまつりすこしはへるとやゝくつしいてゝとはすかたりもしつへきかむつかしけれはよし　くまつかくなむきこえさせんとてまいりぬなとかいとひさしかりつるいかにそむかしのあともみえぬよもきのしけさかなとの給へはしか　くなむたとりよりてはへりつる侍従かをはの少将とゐひはへりしおい人なんかはらぬこゐにてはへりつるとありさまきこゆいみしうあはれにかゝるしけきなかになに心ちしてすくし給ふらむいまゝてとはさりけるよとわか御心のなさけなさもおほししらるいかゝすへきかゝるしのひあるきもかたかるへきをかゝるついてならてはえたちよらしかはらぬありさまならはけにさこそはあらめとをしはからるゝ人さまになむとはのたまひなからふといり給はむ事猶つゝましうおほさるゆへある御せうそこもいときこえまほしけれとみたまひしほとのくちをそさもまたかはらすは御つかひのたちわつらはむもいとをしうおほしとゝめつこれみつもさらにえわけさせ給ふましきよもきの露けさになむはへる露すこしはらはせてなむいらせ給ふへきときこゆれは

　たつねてもわれこそとはめみちもなくふかきよもきのもとの心をとひとりこちて猶をり給へは御さきの露をむまのむちしてはらひつゝいれたてまつるあまそゝきも猶秋のしくれめきてうちそそけは御かささふらふけにこのした露はあめにまさりてときこゆ御さしぬきのすそはいたうそをちぬめりむかしたにあるかなきかなりし中門なとましてかたもなくなりていり給ふにつけてもいとむとくなるをたちましりみる人なきそ心やすかりけるひめ君はさりともとまちすくし給へる心もしるくうれしけれといとはつかしき御ありさまにてたいめむせんもいとつゝましくおほしたり大二のきたのかたのたてまつりをきし御そともをも心ゆかすおほされしゆかりにみいれたまはさりけるをこの人　くのかうの御からひつにいれたりけるかいとなつかしきかしたるをたてまつりけれはいかゝはせむにきかへ給ひてかのすゝけたる御き丁ひきよせておはすいり給てとしころのへたてにも心はかりはかはらすなん思ひやりきこえつるをさしもおとろ

かい給はぬうらめしさにいまゝて心みきこえつるをすきならぬこたちのしるさにえすきてなむまけきこえにけるとてかたひらをすこしかきやり給へれはれいのいとつゝましけにとみにもいらへきこえ給はすかくはかりわけいり給へるかあさからぬに思おこしてそほのかにきこえいて給けるかゝる草かくれにすくし給ひけるとし月のあはれもをろかならすまたかはらぬ心ならひに人の御心のうちもたとりしらすなからわけいりはへりつる露けさなとをいかゝおほすとしころのをこたりはたなへてのよにおほしゆるすらむいまよりのちの御心にかなはさらむなんいひしにたかうつみもおうへきなとさしもおほされぬこともなさけなさけしうきこえなし給ふことともあへめりたちとゝまり給はむもところのさまよりはしめまはゆき御ありさまなれはつき　くしうのたまひすくしていて給ひなむとすひきうえしならねとまつのこたかくなりにけるとし月のほともあはれに夢のやうなる御身のありさまもおほしつゝけらる

ふちなみのうちすきかたくみえつるはまつこそやとのしるしなりけれかそふれはこよなうつもりぬらむかしみやこにかはりにけることのおほかりけるもさま　くあはれになむいまのとかにそひなのわかれにおとろへしよのものかたりもきこえつくすへきとしへたまへらむ春秋のくらしかたさなともたれにかはうれへ給はむとうらもなくおほゆるもかつはあやしうなむなときこえ給へは

としをへてまつしるしなきわかやとを花のたよりにすきぬはかりかとしのひやかにうちみしろき給へるけはひも袖のかもむかしよりはねひまさり給へるにやとおほさる月入かたになりてにしのつまとのあきたるよりさはるへきわたとのたつやもなくのきのつまものこりなけれはいと花やかにさしいりたれはあたりあたりみゆるにむかしにかはらぬ御しつらひのさまなと忍草にやつれたるうへのみるめよりはみやひかにみゆるをむかしものかたりに塔こほちたる人もありけるをおほしあはするにおなしさまにてとしふりにけるもあはれなりひたふるにものつゝみしたるけはひのさすかにあてやかなるも心にくゝおほされてさるかたにてわすれしと心くるしく思ひしをとしころさま　くのものおもひにほれ　くしくてへたてつるほとつらしとおもはれつらむといとをしくおほすかの花ちるさともあさやかにいまめかしうなとはゝなやき給はぬところにて御めうつしこよなからぬにとかおほうかくれにけりまつりこけいなとのほと御いそきともにことつけて人のたてまつりたるもの色　くにおほかるをさるへきかきり御心くはへ給ふ中にもこの宮にはこまやかにおほしよりてむつましき人　くにおほせ事給ひしもへともなとつかはしてよもきはらはせめくりのみくるしき

にいたかきといふものうちかためつくろはせ給ふかうたつねいて給へりときゝつたへんにつけてもわか御ためゝむほくなけれはわたり給事はなし御ふみいとこまやかにかき給ひて二条院ちかきところをつくらせ給ふをそこになむわたしたてまつるへきよろしきわらはへなともとめさふらはせたまへなと人　くのうへまておほしやりつゝとふらひきこえ給へはかくあやしきよもきのもとにはをきところなきまて女はらも空をあふきてなむそなたにむきてよろこひきこえけるなけの御すさひにてもをしなへたるよのつねの人をはめとゝめみみたて給はす世にすこしこれはとおもほへこゝちにとまるふしあるあたりをたつねより給ふものと人のしりたるにかくひきたかへなに事もなのめにたにあらぬ御ありさまをもののめかしいて給ふはいかなりける御心にかありけむこれもむかしのちきりなめりかしいまはかきりとあなつりはてゝさま　くにまよひちりあかれしうへしもの人　くわれも　くまいらむとあらそひいつる人もあり心はへなとはたむもれいたきまてよくおはする御ありさまに心やすくならひてことなることなきなます両なとやうのいへにある人はならはすはしたなき心ちするもありてうちつけの心みえにまいりかへり君はいにしへにもまさりたる御いきをいのほとにてものゝおもひやりもましてそひ給ひにけれはこまやかにおほしをきてたるににほひいてゝ宮のうちやう　く人めみえきくさのはもたゝすこくあはれにみえなされしをやり水かきはらひせむさいのもとたちもすゝしうしなしなとしてことなるおほえなきしもけいしのことにつかへまほしきはかく御心とゝめておほさるゝ事なめりとみとりて御けしき給はりつゝついせうしつかうまつるふたとせはかりこのふる宮になかめ給てひんかしの院といふところになむ後はわたしたてまつり給けるたいめんし給ふ事なとはいとかたけれとちかきしめのほとにておほかたにもわたり給にさしのそきなとし給ひつゝいとあなつらはしけにもてなしきこえたまはすかの大二のきたのかたのほりておとろきおもへるさま侍従かうれしきものゝいましはしまちきこえさりける心あさゝをはつかしう思へるほとなとをいますこしとはすかたりもせましけれといとかしらいたううるさくものうけれはなむいまゝたもついてあらむおりに思いてゝきこゆへきとそ